

これまでの西神楽まちなか保健室の活動

設置の背景

西神楽地域は、人口約3,000人と小規模な集落であるが、集落ごとのまとまりがあり、住民同士の絆が強いという地域特性がある。一方、高齢化率も市内で47.9%（H30.4）と最も高く、地域に診療所等がなく医療や福祉サービスの提供を受けにくい地域である。そのため、平成31.4月に施設再編の中で新たな市民サービスの提供として、モデル的に「健康に関する取組」を開始した。

【活動内容】

- ・西神楽支所に週1回（水曜日）10時から16時まで保健師や栄養士を派遣し、健康相談等を実施。
- ・利用者の来所状況が少ないことから、令和元年12月から開設時間を短縮し、10時から13時までに変更。
- ・まち協との協働事業やNPOグランドワーク西神楽の事業への参画、地域のイベントへの参加など地域活動を連動させながら住民への周知を展開した。

令和元年度

西神楽支所に週1回開設減塩に関する訪問調査や健康イベント、高齢者を中心に展開。

令和2年度

健康イベントを計画するが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、保健室のみを開設。

令和3年度

西神楽地域交流センターに移設。前年度同様、新型コロナウイルスの感染拡大により、保健室のみ開設。次年度に向け、新たな取組の展開を計画中

【現状と課題】

- ①西神楽中央地区を中心に減塩に関する訪問調査や地域の行事等と連携し周知を図った結果、保健室活動が浸透し、事業や活動の協力者の輪が広がった。
- ②西神楽中央地区やまちづくり推進協議会メンバーなど、活動の浸透が一部の住民に留まっており、若い世代などへの周知・浸透に課題がある。
- ③新型コロナの影響で、参集・対面型の事業が実施できず、新たな事業の立ち上げなどの展開が難しかった。
- ④設置して2年が経過し、内容のマンネリ化や利用者の固定化があり、来所者が減少している。
- ⑤楽しく健康づくりしたい、子どもにも目を向けてほしい等、活動の充実を求める住民の声が寄せられている。

活動を通じて西神楽の特性や強みを実感

【西神楽地区の特性・強み】

コミュニティーの中に、乳幼児から働き盛り、高齢者までの各年代が存在し、ライフステージ毎の健康課題に取り組みやすい環境がある。

地域住民の結束力があり、1つのコミュニティーとしてのまとまりがあり、地区組織活動が活発で連携や協働しながら取り組める。

米や野菜が豊富で、グリーンツーリズムに向けた活動など地域の新たな魅力ある資源を活用した取組の可能性もある。

西神楽まちづくり推進協議会のバックアップやNPOグランドワーク西神楽の活動など保健室の活動を応援してくれる組織や住民がいる。

今後の取組

見直しの
ポイント

- 西神楽地域の豊かな農産物や活発なコミュニティー活動など、地域特性や優位性を活かした健康づくりを展開する。
- まちなか保健室を拠点に、取組を西神楽の住民全体に拡げていくため、対象者を子どもから高齢者までに拡大する。

イメージ

地域の強みや特性は、地域の宝物であり、西神楽には豊富にある。
＝ 宝庫

西神楽には、活発なコミュニティー活動とワクワクするような楽しさがある。
＝まちづくりの玉手箱

健康づくりにも地域の強みや特性を生かすため、地域の宝物を探し、つなげていきたい。

健康づくりにおいても様々な取組を通して地域全体が玉手箱になり、地域住民の健康を支えていく。

西神楽健康玉手箱プロジェクト

全てのライフステージに対応した健康づくり

- ◆地域にある認定こども園や学校と連携し、幼少期や学童期の健康づくりの取組を新たに開始し、子どもから高齢者までのライフステージに応じた取組へと展開していく。
- ◆災害時の健康や高齢化による身体・精神・社会的な健康づくりについても、地域のニーズに合わせた取組を進める。

例えば

幼児や小中学生への健康づくり教室

高齢者の疑似体験グッズによる老化の理解

PTA活動を通じた健康づくり

点から面へ地域の健康づくりを展開

- ◆地域住民による見守り支援、子ども食堂、学習支援など、西神楽では様々な健康に関する取組が行われている。
- ◆保健所主体の事業以外にも、関係団体等が実施する取組に対し、必要時、伴走あるいは後方支援しながら、地域の活動を面として捉えていく。

例えば

民生児童委員や地区社協メンバーとの連携による地域の巡回相談

西神楽で生産される野菜を活用した食育の推進

子ども食堂や学習支援と連携した取組

- ◆地域活動や行事を活用し、連動あるいはマッチングさせ、地域住民と共に取り組んでいく。
- ◆西神楽健康玉手箱プロジェクトについて、住民組織や関係機関と共有し、今後の進め方の内容等を検討し進めていく。

地域のコミュニティー活動の活用

地域のつながりを生かした人材育成
地域に実状や人間関係を通じて地域保健活動の実際を学び、将来の地域医療や保健活動の担い手として学習する機会を提供する。